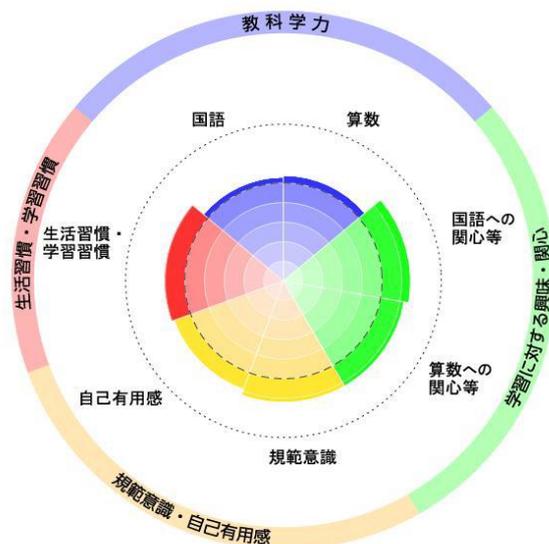
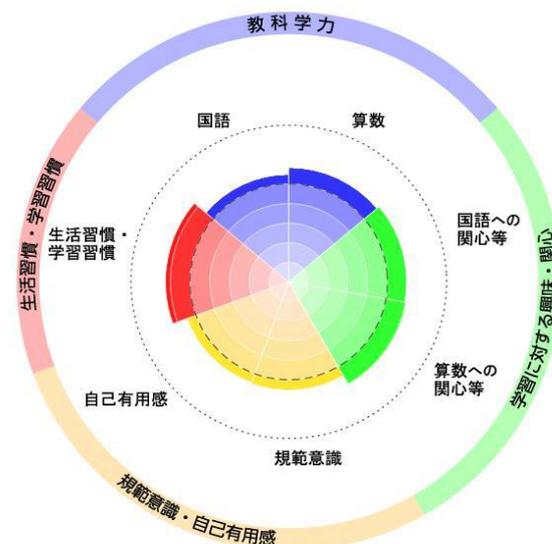


令和5年度 東小岩小 全国学力・学習状況調査結果チャート



東京都基準で見た本校の状況



全国基準で見た本校の状況

【学力調査結果から】

今年度の学力調査の平均正答率は、以下のとおりでした。 (%)

	国語	算数
本校	70.0	69.0
東京都（公立）	69.0	67.0
全国（公立）	67.2	62.5

上のチャートや表のとおり、東小岩小は、国語・算数、学習や生活への意識の質問項目のすべてで、東京都や全国の平均を上回る結果となりました。しかし、教科ごとの問題種別に正答率を見てみると、課題があることも分かりました。

1 国語では、「話すこと・聞くこと」の正答率が高く、「言葉の特徴や使い方に関する事項」と「情報の扱い方に関する事項」の正答率が低かったです。

(1) 「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、漢字の定着や、正しい敬語の使い方について、意識的に取り組む必要があると分かりました。文章中のひらがな漢字に書き直す問題では、52.7%と正答率が低いものもありました。また、敬語についても、本校60.0%（都より-0.2、以下「都より」略）と、低い正答率でした。漢字については、同義語がある場合、前後から判断する力が不足していると考えられます。また、敬語については、目上の方に対して使っていないため、活用できていないことが原因と考えられます。漢字と敬語のどちらも、日頃から繰り返し学ぶ機会を与えることが必要です。また、同じ観点の問題である、文章の種類とその特徴について理解しているかどうかをみる問題では、正答率が本校76.4%（-5.6）と、東京都の平均との差がありました。文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解しながら読むことができているかを問われる設問でした。1つの語句や文だけでなく、文章全体でどのような内容になっているかを捉える力や、文末表現からどのような内容になっているか判断していく力が必要です。語句や表現に着目して1文を正しく読むこと、段落における文章の役割や文章同士の関係を捉えること、さらに、段落ごとの関係がどうなっているかを考えながら読むことに、より丁寧に取り組んでいきます。

(2) 「情報の扱い方に関する事項」については、様々な情報と文章中の言語の関係を見出し、結び付

けて捉えることが求められました。図やグラフなどから正しく情報を読み取ることはもちろん、読み取ったことを言語化してまとめたり、情報同士を関連付けて考え、分析したりする力が必要です。特に正答率が本校60.0%(-8.2)と差が大きかった問題については、「原因と結果」など、情報と情報との関係について正しく判断して答えられているか、という点に課題があることが分かりました。説明文の中にある図やグラフについて、視点をもって読み取り、それを言語化し、複数の事柄と関連付けて説明する活動を重点的に行っていきます。

- (3) また、問題形式別に正答率を見てみると、「選択式」の問題が東京都よりわずかに低い75.4%(-0.5)という結果でした。また、「短答式」と「記述式」の正答率はそれぞれ66.4%(±0)、57.0%(+5.6)と、同等かそれを上回る結果でした。とは言え、正答率の数値から、伸ばしていく必要があることが分かります。これを受け、正しい言語活用能力や読解力を付けるために文章に触れる機会を増やすことや、日頃より短い感想文や意見文を書いたり話したりする活動を積み重ねていきます。

2 算数では、領域別に見ると、「数と計算」72.4%(+1.4)、「図形」61.8%(+7.0)、「変化と関係」75.9%(+0.1)の正答率が、都を上回りました。一方で、「データの活用」は64.8%(-2.5)と都の正答率を下回りました。上回る領域もありましたが、問題別に着目すると、それぞれに課題があることが分かりました。

- (1) 「数と計算」では、「 $66 \div 3$ の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ」という問題で、47.3%(-6.9)と低い正答率でした。(2位数) \div (1位数)の筆算について、図を基に、各位の商の意味を考えることができるかが問われました。わり算の筆算の順序ごとの計算の仕方が、それぞれどのような意味をもっているか、さらに授業で丁寧に押さえていきます。また、一問一答の問題だけでなく、説明させる活動を多く取り入れたり、いくつかの知識を複合的に用いる必要のある応用問題にも、繰り返し取り組ませたりしていきます。

- (2) 「図形」では、「切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのAの角の大きさを書く」という問題で、34.5%(-0.7)と低い正答率でした。「理解していること」=「自分の言葉で説明できること」と捉え、繰り返し図形の性質を言葉で説明させ、定着させていきます。また、問題文の読解ができていなかったとも考えられるため、日頃から発問を単調なものではなく、児童が問題場面を整理しながら解いたり、必要な情報を考えながら取り組ませます。

- (3) 「データの活用」では、表や棒グラフから、読み取ったことを考察する問題において、58.2%(-9.0)と低い正答率でした。表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかを問われました。ここでは、運動が好きな人が、運動があまり好きではない人よりも多いことが分かる数を読み取るために、「30分以上の運動をした日数」が「2日以下」という項目に着目することが必要でした。2つ以上の項目があっても、正しく情報を読み取る力を付けていくことが大切です。日頃から情報を取り扱う授業では、表やグラフの情報などを提示して、様々な視点から読み取り、考察させる活動を繰り返し取り入れていきます。また、読み取るだけでなく、自分の目的に応じてデータを集め、分類整理し、分析するデータサイエンスの学習に取り組んでいきます。

- (4) 問題形式別に正答率を見てみると、「選択式」の問題が62.5%(-0.7)という結果でした。また、「短答式」は80.3%(+2.3)、「記述式」は56.4%(+2.0)と、少し上回る結果でした。ドリルやタブレット端末を繰り返し活用して正しい知識を定着させることや、友達同士で説明させたり解き方を考えさせたりする協働的な学習を、多く取り入れていきます。また、問題文の意図や場面設定から必要な内容を読み取るための読解力も、国語と関連付けて身に付けさせていきます。

国語と算数に共通している課題は、問題の主旨を読み取る「読解力」だと感じる結果でした。どの教科、どのような問題でも、提示されている文章や内容を理解できなければ、正しく答えることはできません。意識して取り組む授業時間や読書活動だけでなく、日常的に言語活動を行っていく必要があると考えます。

【質問紙調査結果から】

質問紙調査では、普段の生活全般に関する内容を聞いています。

「毎日朝食を食べているか」という質問には「している・どちらかといえばしている」と答えた児童の割合が98.3%と、非常に高い結果となりました。また、「毎日同じくらいの時刻に寝ているか」という質問には、「している・どちらかといえばしている」と答えた児童の割合が85.7%と、高い結果となりました。どちらも児童が学校生活に集中して取り組める大きな理由の1つです。各ご家庭に協力を呼びかけ、引き続き児童の生活改善に取り組んでいきます。

一方で、「1日当たりどれくらいの時間勉強をしているか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」という質問には、「1時間以下」と答えた児童が30.4%（うち30分以下が12.5%）おり、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間勉強をするか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」に「1時間以下」と答えた児童は37.5%（うち「全くしない」が7.1%）でした。放課後や休日の過ごし方に、児童により大きく差があることが分かりました。学習内容の定着には、授業外での学習時間の確保が非常に重要です。各ご家庭で、児童自身でじっくり考え、学習習慣を付けていけるよう、家庭に協力を呼び掛けていきます。

また、読書に関する「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館（それぞれ電子図書館を含む）にどれくらい行くか」という質問では、「年に数回程度」と「ほとんど、または全く行かない」を合わせた、図書館利用が少ない割合が71.4%という非常に高い数値でした。また、「家におよそどれくらいの本があるか（雑誌、新聞、教科書は除く）」という質問に対しては、「100冊以下」と答えた児童が62.5%（うち25冊以下の児童が25%）でした。これは、「学力調査結果から」の課題点「読解力」とも関わる結果です。本校では、朝読書や公共図書館の団体貸し出しを継続し、日頃から本に触れる機会を大切にしています。しかし、「図書館利用が少ない」「家に100冊以下」と答えた児童の割合が6～7割であることから、学校での意識的な読書活動の環境は、一生重要です。今後も継続して学校図書館の活用、読書活動の充実に取り組み、家庭との連携を呼びかけていきたいと考えます。

なお、最も割合が高かった質問は、「人の役に立つ人間になりたいか」という質問で、肯定的に答えた児童は100%でした。このことは、とても素晴らしく、誇らしいことです。日頃から教員の手伝いをはじめ、友達同士での助け合いや、下級学年のお世話を進んでしている姿が見られます。また、委員会活動や係活動においても、学校をより良くしていくための活動を考えて意欲的に取り組んでいます。こういった姿が、正にこの回答に表れていると感じます。また、「学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」という質問で肯定的に答えた児童は、96.5%という高い数値でした。授業では、話し合い活動の中で自分にはない考えやその良さを見つけながら話し合ったり、難しい課題にも友達と意見を交わしながら解決に取り組んだりしています。1人では解決できない、思いつかないことも、誰かと一緒に協力することで解決することができることを、日頃から理解して学習に取り組んでいることが伝わります。

誰かの役に立とうという思いをもち、お互いの意見の良いところを取り入れようとするこの前向きな態度は、よりよい社会を築くための大切な要素です。その思いが十分に発揮され、予測不可能な未来を力強く生きていく力を身に付けることができるよう、また、社会における自分の役割を考え、自分以外の人と協力し

て世の中の課題を解決するための力を付けられるよう、今後も協働的な学習をはじめとした様々な教育活動を通じて、指導してまいります。